

第3章

ブック操作

コードを記述したブックはマクロ有効ブックで保存します。作成済のマクロ有効ブックは上書き保存をします。保存の指示のない新規ブックは保存せずに閉じます。

03-01 ブック操作の基本

Workbook オブジェクトは、ワークブックそのものです。

複数のブックを扱う場合や、読み込みや保存の際には、Workbook オブジェクトを意識してVBAを記述する必要があります。

ワークブックに対して作業を行うには、ブックを開いておく必要があります。

開いている全てのブックの集合体が Workbooks コレクションです。

▶ ワークブックを取得する

Workbook オブジェクトは Workbooks コレクションに含まれます。

「Workbooks」と複数形のキーワードで指定します。

■ ファイル名を利用してワークブックを取得します。

構文：Workbooks ("ブック名")

■ インデックス番号を利用してワークブックを取得します。

構文：Workbooks (インデックス番号)

最初に開いたファイルは「Workbooks(1)」と指定します。

実習1 使用ファイル：「Sample3」「Sample4」「Sample5」

- 【1】 下記のプロシージャを「Sample3」へ記述し、「Sample3」「Sample4」「Sample5」を開いた状態で、実行します。
実行後は Sample3 はマクロ有効ブックとして保存、他のブックは閉じます。

課題【1】 開いているワークブックの個数を変数 (lngBookCount) に保存してメッセージボックスへ表示します。 (プロシージャ名：Test3_1_1)

```
lngBookCount = Workbooks.Count
```

課題【2】 最前面に表示されているワークブックのファイル名を変数 (stWorkbookName) に保存してメッセージボックスへ表示します。

(プロシージャ名：Test3_1_2)

```
stWorkbookName = ActiveWorkbook.Name
```

MEMO

教材データが保存されている「Data」フォルダーをCドライブにコピーして操作を確認します。テキストではCドライブの「Data」フォルダーにブックがあることを前提として課題を進めます。

MEMO

▶ **Workbooks コレクション**
開いているすべてのワークブック (Workbook オブジェクト) が格納されているコレクションです。コレクションからワークブックを指定するには、Workbooks の引数へワークブックのブック名やインデックス番号を指定します。

! HINT1

▶ **Workbooks プロパティ**
開いているワークブックの数を数える、ワークブックを新しく作成するなど、ワークブック全体を扱うプロパティです。

MEMO

▶ **Workbook オブジェクトの取得**
ActiveWorkbook オブジェクトと ThisWorkbook オブジェクトは1つですので、単数形で指定します。

! HINT1-2

▶ **ActiveWorkbook プロパティ**
最前面に表示されているワークブック (アクティブワークブック) を取得します。複数のワークブックを開いている時、最前面に表示されているブックを操作する時に使用します。

課題 [3] 現在実行されているプログラムが記述されているブックのファイル名を変数 (stWorkbookName) に保存してメッセージボックスへ表示します。

(プロシージャ名 : Test3_1_3)

```
stWorkbookName = ThisWorkbook.Name
```

▶ ブックをアクティブにする…Activate メソッド

ブックをアクティブにするには、Activate メソッドを利用します。

課題

使用ファイル : 「新規ブック」

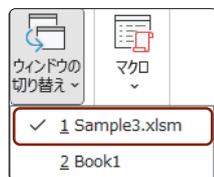
「Sample3」をアクティブにするプロシージャを作成します。「Sample3.xlsm」を開いた状態で、実行します。以後拡張子の指定のあるブックは指定された拡張子のブックを開きます。指定がなければどちらでも良いです。

(プロシージャ名 : Test3_1_4)

構文 : ワークブックオブジェクト .Activate

▶ コードを記述して、実行します。

```
Sub Test3_1_4()
    Workbooks("Sample3.xlsm").Activate
End Sub
```



Excel のメニュー [表示] - [ウィンドウの切り替え] を選択した状態

実習 2 使用ファイル : 「新規ブック」

[1] 「Sample5」の「Sheet2」シートをアクティブにするプロシージャを階層構造で記述します。

(プロシージャ名 : Test3_1_5)

[2] 「Sample5」を開いた状態で、作成したプロシージャを実行します。

! HINT1-3

▶ **ThisWorkbook** プロパティ
実行中のプログラムが記述されているワークブックを取得します。

MEMO

ワークブックオブジェクトには Select メソッドはありません。

! HINT

▶ **ウィンドウの切り替え**

開いているファイルが表示されません。アクティブファイルにはチェックマークがついています。ファイル名をクリックしてアクティブファイルを切り替えます。

! HINT

上の階層のオブジェクトから下の階層のオブジェクトを「.(ピリオド)」でつなげて記述します。「Book1」の「Sheet1」をアクティブにする構文は下記です。

```
Workbooks("Book1.xlsx") _
    .Worksheets("Sheet1") _
    .Activate
```